

司馬遼太郎作品の
心に残るシーン
コンクール

入選作品
エピソード&写真掲載!

司馬さんは
滋賀が
好きだった

近江文化を 「発見」する 滋賀の スポット

ガイドブック

司馬遼太郎作品の心に残るシーンから滋賀の魅力を発信!

滋賀県

「近江文化を発見」する滋賀のスポット おでかけDATA

	アクセス	P	料金等	休館日等
①小谷城跡	JR河毛駅から徒歩30分	有	無料	見学自由
②大原観音寺	JR長浜駅からバス「観音寺前」下車徒歩5分	有	無料	年中無休
③国友鉄砲の里資料館	JR長浜駅からバス「国友鉄砲の里資料館前」下車	有	一般300円 小中学生150円	年末年始
④賤ヶ岳リフト	JR木ノ本駅からバス「大音」下車徒歩3分	有	往復 大人800円 子ども400円	12月~3月冬期休業 6-7-9月は土日祭のみ営業
⑤寝物語の里	JR柏原駅から徒歩30分	無	無料	見学自由
⑥佐和山城跡	JR彦根駅から徒歩50分	有	無料	見学自由
⑦彦根城	JR彦根駅から徒歩15分	有	一般800円 小中学生200円	年中無休
⑧馬見岡鶴向神社	JR近江八幡駅または近江鉄道日野駅からバス「向町」下車徒歩3分	有	無料	年中無休
⑨安土城跡	JR安土駅から徒歩25分	有	大人700円 小人200円	年中無休 ※夏休 などにより閉山の場合があります
⑩五ヶ荘近江商人屋敷	JR能登川駅からバス「からざ三方よし前」下車徒歩5分	有	3船共通 大人券600円 小中学生300円	月・祝日の翌日 年末年始
⑪義仲寺	JR膳所駅から徒歩7分	無	大人300円、中学生150円 小学生100円	月(祝日除く) ※4-5月、9-10-11月は無休
⑫幻住庵	JR石山駅からバス「幻住庵」下車すぐ	有	無料	月(祝日の場合は翌日) 年末年始
⑬和田神社	京阪電鉄膳所本町駅から徒歩10分	有	無料	年中無休
⑭日吉大社	JR比叡山坂本駅から徒歩20分	有	大人300円 小人150円	年中無休
⑮比叡山延暦寺	JR比叡山坂本駅から徒歩20分坂本ケーブル延暦寺駅下車	有	東塔・西塔・横川共通券 大人700円、中学生500円、小学生300円	年中無休
⑯紫香楽宮跡	信楽高原鉄道「紫香楽宮跡駅」から徒歩20分	無	無料	見学自由
⑰北小松水泳場	JR北小松駅から徒歩10分	有	無料	水泳場の営業は 7月1日~8月31日
⑱白鬘神社	JR近江高島駅から徒歩40分	有	無料	年中無休
⑲海津大崎	JRマキノ駅から徒歩50分	無	無料	年中無休
⑳興聖寺	JR安曇川駅からバス「岩瀬」下車徒歩約3分	有	300円	年中無休
㉑朽木陣屋跡	JR安曇川駅からバス「朽木グランド前」下車徒歩2分	有	無料	見学自由

※料金は2018年3月現在のものです。 ※徒歩の時間はおよその目安です。



司馬作品の心に残るシーンから 滋賀の魅力を発見!

協力/司馬遼太郎記念館

滋賀県の近江は東海道や中山道、北国街道など主要な街道が交わり、琵琶湖の水道もあって歴史上たまたび重要な役割を果たしてきました。司馬遼太郎氏の歴史小説や街道をゆめくまの作品には、滋賀の土地や歴史上の人物が数多く登場します。このカイトブックはそうした司馬作品に関する滋賀の地をピックアップし、「司馬遼太郎作品の心に残るシーンコンクール」の入選作品と連動してご紹介していきます。本書を手にとり、近江文化を発見できる滋賀のスポットをぜひ訪れてみてください。



湖東のシーン.....8~13頁

① 小谷城跡(長浜市)
② 大原観音寺(米原市)
③ 国友鉄砲の里資料館(長浜市)
④ 賤ヶ岳(長浜市)
⑤ 寝物語の里(米原市)
⑥ 佐和山城跡(彦根市)
⑦ 彦根城(彦根市)
⑧ 馬見岡綿向神社(蒲生郡日野町)
⑨ 安土城跡と西の湖の水郷めぐり(近江八幡市)
⑩ 五個荘近江商人屋敷(東近江市)

湖北のシーン.....4~7頁

① 小谷城跡(長浜市)
② 大原観音寺(米原市)
③ 国友鉄砲の里資料館(長浜市)
④ 賤ヶ岳(長浜市)
⑤ 寝物語の里(米原市)

審査員コメント 22~23頁

総評
● 審査委員長 加藤賢治氏
● 審査員コメント
岩根順子氏(滋賀文化を語る会代表) さかなこ(こじ氏) (滋賀県)
吉田武史氏 (ライオングループ代表 興カマラン)

湖西のシーン.....18~21頁

① 北小松の集落(大津市)
② 白鬚神社(高島市)
③ 海津大橋(高島市)
④ 興聖寺と旧秀隣寺庭園(高島市)
⑤ 朽木陣屋跡(高島市)

湖南のシーン.....14~17頁

① 養仲寺(大津市) ② 幻住庵(大津市)
③ 和神神社(大津市)
④ 坂本の町なみ(大津市)
⑤ 比叡山延暦寺(大津市)
⑥ 紫香楽宮跡(甲賀市)

司馬遼太郎氏作品
心に残るシーンコンクール受賞者

- 最優秀賞
【写真部門】
朽木美穂さん(22歳・東京都豊島区).....[10]頁
【エピソード部門】
海音寺ジョー(ペンネーム)さん(46歳・滋賀県高島市).....[11]頁

- 入選
【写真部門】
堀川経史さん(35歳・滋賀県大津市).....[5]頁
Hiracchi(ペンネーム)さん(28歳・滋賀県湖南市).....[9]頁
田村宏さん(73歳・京都府葛城郡).....[15]頁
内田晴己さん(70歳・滋賀県大津市).....[19]頁
【エピソード部門】
美濃から来ました(ペンネーム)さん(38歳・滋賀県大津市).....[5]頁
あさちゃん(ペンネーム)さん(60歳・京都府京都市).....[6]頁
磯山信夫さん(70歳・滋賀県草津市).....[7]頁
岩切健さん(58歳・大阪府大阪市).....[17]頁
森田恵奈さん(31歳・滋賀県大津市).....[21]頁

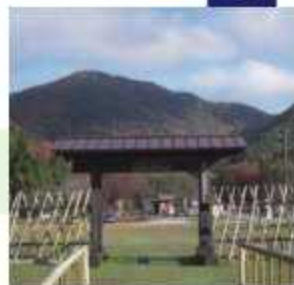
- 審査員特別賞
【写真部門】
藤沢和美さん(83歳・滋賀県東近江市).....[21]頁
【エピソード部門】
吉田ケイ(ペンネーム)さん(34歳・埼玉県秩父市).....[13]頁



ちはら ちかわばし
**「血原」「血川橋」といった
 地名が伝える姉川の戦い**

城跡から琵琶湖や湖北の地を一望することができ、小谷城。難攻不落といわれる城であったことから、信長は城攻めではなく、野戦での勝負とし、姉川での戦いを考えたと言われています。浅井長政の裏切りを知った信長は近江の小谷城まで攻め、浅井、朝倉勢と姉川の合戦となりました。織田信長・徳川家康勢が大勝しますが、この戦いによる戦死者は両軍で約2,500人とみられ、姉川は血で真っ赤に染まったといわれています。古戦場周辺には、「血原」「血川橋」といった地名が残り、当時の惨状を伝えています。

掲載作品 近江散歩 国領り物語 新史太閤記



戦国一の美女といわれるお市の方と長政の子、茶々、お初、お江の浅井三姉妹が生まれた小谷城

小谷城跡
 ■住所 滋賀縣長浜市湖北刈伊部
 ■TEL / 0749-78-2320
 (小谷城戦国歴史資料館)

小谷城跡(長浜市)

①

司馬作品から探る
湖北のシーン

戦国の世の舞台となった湖北。今も荒々しさを残す賤ヶ岳や小谷城跡。一歩足を踏み入ると、司馬さんの歴史小説に登場する戦国時代の武将や姫たちが蘇ってきます。

大原観音寺(滋賀県米原市工藤町原野)
 ■住所 滋賀県米原市朝日1342
 ■TEL / 0749-55-1340



大原観音寺(米原市)

②



長浜駅前にある「秀吉公と石田三成公 出逢いの像」
 ▶ちえこさん(ちえこ)の必見作品

いしだみつなり とよとみひでよし
**石田三成と豊臣秀吉
 三献の茶による運命の出会い**

掲載作品 関ヶ原

三成の有名な逸話に「三献の茶」があり、司馬さんの「関ヶ原」冒頭で石田三成と豊臣秀吉の出会いの場のエピソードとして登場しています。秀吉が鷹狩りで立ち寄った寺で、寺の小僧をしていた石田三成が、ぬるめのお茶から徐々に熱くして三杯のお茶を差し出したことから、三成を「三杯の才」として秀吉が見出したという逸話です。大原観音寺(米原)はその石田三成と豊臣秀吉の出会いの寺の一つとされています。(長浜市木之本にある三珠院説もあります)

入選作品
 写真
 部門

堀川経史さん 35歳・滋賀県大津市

姉川の戦いで浅井長政・朝倉景健両軍は織田・徳川の軍勢に大敗しました。この巻で登場する園友で作られた鉄砲も多く用いられたのかもかもしれません。壮絶な戦いで、下流の川や湖は紅くなったことでしょう。激しい風の吹く夕暮れ、夕日に染まる荒波は武士の血潮に思えました。

街道をゆく
 志江散歩、奈良散歩
 (朝日文庫)

を読んで

入選作品
 エピソード
 部門

新史太閤記
 (新米文庫)

を読んで

美濃から来ました(ペンネーム)さん
 38歳・滋賀県大津市
出世街道真只中の秀吉の明るい時代を思いながら、小谷大嶽の特徴的な丸い山頂を眺めた。

近江には景色の良い場所が多いが、中でも山の姿が素晴らしい。特に湖東側を北上すると特徴的な姿の山が次々と現れ、その中には有名な城山がいくつも混じっていて、城好きにはたまらない。山城が交通の要所に築かれたことがこれほど実感できる土地も珍しいのではないかと。「新史太閤記」で浅井攻めの前線を任された秀吉が腰を据えたのも、一帯を見張らせる横山城だ。そこで秀吉と竹中半兵衛が浅井との小競り合いに鮮やかに勝利する場面がある。その、まるで将棋でも指すかのような超然とした戦ぶりに、さすが天才達は視点が違う、と眩しく思ったものだが、実際にそこに立ってみると、確かに何もかも見晴らせるような気になった。出世街道真只中の秀吉の明るい時代を思いながら、小谷大嶽の特徴的な丸い山頂を眺めた。

国友鉄砲の里資料館（長浜市）③



桶狭間の戦いで、織田信長は日本で初の鉄砲を使用しました。その鉄砲が国友鉄砲と言われています。国友鉄砲製造は、種子島に伝わる鉄砲を知った将軍足利義晴が国友善兵衛に鉄砲の製作を依頼したのが始まりです（一五四四年）。戦国時代には、信長をはじめ多くの戦国武将の注文を受け、大坂の堺とならぶ鉄砲の産地として栄え、鉄砲の里として知られるようになりました。

国友鉄砲の里資料館*
住所 滋賀県長浜市国友町534
TEL / 0749-62-1250



また、国友「買斎（国友善兵衛）」は、連発式空気銃や距離測定機を作り、自作の天体望遠鏡で太陽の黒点を連続観察したことで有名です。

戦での鉄砲使用は織田信長の国友鉄砲が始まり

賤ヶ岳（長浜市）④

秀吉と 賤ヶ岳の七本槍

琵琶湖の北にある賤ヶ岳は琵琶湖八景の一つとして知られています。羽柴秀吉と柴田勝家が主導権を争った「賤ヶ岳の戦い」の戦場跡で、戦死者の墓や遺跡が点在し、数々の碑文があります。織田勢力を二分する激しいものとなり、これに勝利した秀吉は亡き織田信長が築き上げた権力と体制を継承し天下人への第一歩となりました。この戦いにより秀吉方で功名をあげた七人は後世に「賤ヶ岳の七本槍」と呼ばれ、地酒「七本鎗」にもその名が残っています。

歴史作家 新史大開記



▲「賤ヶ岳の七本槍」とは加藤清正、福島正則、加藤嘉明、平野長泰、脇坂安治、榑原武則、片桐且元の7人の武将。山頂からは、余呉湖、琵琶湖、竹生島、伊吹山などの360度の展望が得られる。

賤ヶ岳（賤ヶ岳リフト）
住所 滋賀県長浜市本之木町大音
TEL / 0749-62-3009

寝物語の里（米原市）⑤



寝物語の里
▶ 森良和さんの応募作品
住所 滋賀県米原市長久寺
TEL / 0749-58-2227 (米原観光協会)

「寝物語の里」と伊吹のもぐさ

司馬さんが「街道をゆく 近江散歩、奈良散歩」で訪れた「寝物語の里」。滋賀と岐阜の県境にあり、昔、近江と美濃の国境の小さな溝を隔てて並ぶ二つの旅籠に泊まった旅人が、壁越しに寝ながら話をしたという伝説から「寝物語の里」と呼ばれます。江戸時代までは東西の文化、風俗習慣、経済流通の接点の地でした。昔は多くの人で賑わった旧中山道沿いの柏原宿は伊吹山の南麓にあたります。伊吹山は葉草が多く、この地域ではよもぎが多く生え、「伊吹もぐさ」が知られています。

歴史作家 新史大開記

入選作品
エピソード
部門

街道をゆく
近江散歩、奈良散歩
（朝日新聞）
を読んで

あきちゃんペンネームさん 60歳・京都府京都市
花火を見たり、国友銃砲火薬店の前を通るたびに国友の美しい景色を思い出す。

私は京都に住んでいますので、滋賀にもよくかけます。国友を訪れたとき、はじめて家の近所にある国友銃砲火薬店と国友のつながりを知りました。国友銃砲火薬店は、明治時代に国友藤九郎という人が京都に来て創業した会社だそうで、今では全国各地でこの会社の花火が打ち上げられています。長浜市国友町には、堺、根来同様に鉄砲の生産地として栄えた歴史があります。司馬遼太郎さんは「街道をゆく」に、国友のことを以下のように書いています。「国友村の次郎助という人が、試みに刃の欠けた小刀でもって大根をくりぬき、巻き溝つきのねじ形をとりだし、もう一度大根にねじ入れてみた。これによって雄ねじと雌ねじの理をさとって老熟者に説明すると、一同、大いに次郎助をほめた。その名が「国友鉄砲記」とどめられていることからみても、かれの名と功は感歎されつつ伝承したものかとおもえる。」花火を見たり、国友銃砲火薬店の前を通るたびに国友の美しい景色を思い出します。

入選作品
エピソード
部門

街道をゆく
近江散歩、奈良散歩
（朝日新聞）
を読んで

磯山信夫さん 70歳・滋賀県草津市
もぐさが長生きを
もたらしたのかと
感嘆の想いを禁じ得ない。

「近江散歩」に出てくる伊吹山は「古代のひとびとがこの山をたえず息吹いている精霊とみただけでなく、ふしぎに葉草が多く、いかにも奇すしき山とみていた」という件がある。この点に共感すべき回想録が私にのみみがある。私は55年程前、伊吹登山を行った。これが私の唯一の登山だったが、その想いは、頂上に近づくにつれて、霞がかかり如何にも霊の様な感じがしたが、前の人が微かに見え、あとを着いていき登頂出来た。これは山の神のなせる業と感じた。其時梅干しおにぎり弁当を作ってくれた父は、このもぐさで体調の維持をしていたのも思い出した。その父は7年前に99歳で亡くなったが、今思うと、このもぐさが長生きをもたらしたのかと感嘆の想いを禁じ得ない。

司馬作品から探る

湖東のシン

蒲生氏郷、石田三成を司馬さんは生粋の近江人と称しています。信長が安土で基礎を築いた楽市楽座のもと、顔角を現した近江商人。近江人の原点を探る湖東の旅です。

戦いによる繁栄と衰退が物語る

三成の佐和山城と井伊家の彦根城

佐和山城跡 (彦根市)

⑥

「三成に過ぎたるもの二つあり、島の左近と佐和山の城」と伝えられている佐和山城は、近江守護佐々木氏にさかのぼり、石田三成が城主となってからは、五層の天守と伝わり、鳥居本を大手とする立派な城だったといわれます。城壁は上塗りもしていない土堀で、城内は質素な造りだったようです。三成が関ヶ原の戦いで敗れた後、井伊直政が新しい城主となり、彦根城築城にともない廃城になりました。その際、彦根城へ移築されたものの、山頂付近は徹底的に壊され、現在の佐和山城跡に石垣の遺構はほとんど残っていません。

掲載作品 関ヶ原 近江散歩



山頂までのハイキングコースが整備され、彦根城や琵琶湖等が一望できる佐和山城跡

佐和山城跡*
■住所 滋賀県彦根市古沢町
■TEL 0749-22-2954 (彦根観光案内所)

彦根城 (彦根市)

⑦

司馬さんも感動した彦根城天守

関ヶ原の戦い後に徳川家の西国対策として井伊直継(のち直勝)・直孝によって築城された彦根城は国宝の天守を備え、その優美な姿は司馬さんも「街道をゆく 近江散歩、奈良散歩」で「ときめくほどに感動した」というように、四〇〇年以上経った今も創建当時そのままの形で残っています。また、表門の櫓を渡ったところに、井伊家代々の宝物が江戸時代さながらに保存されている博物館も併設され、関ヶ原の戦いで井伊の赤備えと呼ばれ、恐れられた赤い甲冑や徳川時代の傑作、国宝「彦根屏風」が期間限定で展示されています。

彦根城*
■住所 滋賀県彦根市全庵町1-1
■TEL 0749-22-2742 (彦根城管理事務所)



国指定特別史跡の彦根城



JR彦根駅前の井伊直政像。彦根35万石の藩祖となった。▶けいさん(ペンネーム)の応募作品

馬見岡綿向神社 (蒲生郡日野町)

⑧

もとは、綿向山(1110m)の頂上に鎮座していましたが、蒲生氏が城下町を開いてから現在地に移され、湖東の大宮として信仰を集めました。

商人からも尊敬を集めた蒲生氏郷。伊勢松坂に国替えされた氏郷のあとを慕って日野商人は松坂に移り、伊勢の商業を盛んにしていきます。神社の社大な境内には、本殿や拝殿をはじめ、江戸時代に日野商人が寄進したという立派な石灯籠や石橋があります。また、毎年5月2・3日の湖東地方最大の日野祭(県指定無形民俗文化財)は絢爛豪華な曳山で賑わいます。



馬見岡綿向神社
▶和田智明さんの応募作品
■住所 滋賀県蒲生郡日野町井705
■TEL 0748-52-0131



猪と綿向神社

Hiracchi (ペンネーム)さん 28歳・滋賀県湖南市

司馬遼太郎が世の事に疲れ切っている古い友人に日野町の綿向神社を勧めただけに興味を持ち、実際に綿向神社に行ってみた。「イノシシ年の年男のための神社であることも知らなかった」僕自身も、イノシシの石像と由緒書きを見て、一年後の正月にイノシシ年の祖父を連れて来たいと思った。まさしく来年がイノシシ年である。帰り道、山頂に雪をいただいたご神山の綿向山も眺められ、すがすがしい気持ちになった。司馬遼太郎に、本当にいいことを教えてもらえた。

街道をゆく 近江散歩、奈良散歩 (4冊1文庫) を読んで

入選作品 写真部門

イノシシ年の司馬さんが友人に猪の絵馬をもらった 蒲生氏郷ゆかりの馬見岡綿向神社



「滋賀の持つ文化の豊かさ」を再認識して、滋賀への愛着を深めていただくために「司馬遼太郎作品の心に残るシーンコンクール」と題し、司馬作品の中で特に思い入れがあるシーンについてのご自身のエピソードや写真を平成29年11月7日～平成30年1月20日まで募集しました。応募総数183作品の中から最優秀賞各1作品、優秀賞エピソード5作品、写真4作品、審査員特別賞各1作品が選ばれました。奇しくも佐和山城を取り上げた作品が両部門とも最優秀賞に選ばれましたので、ここでご紹介します。

関ヶ原から後も、 時代は繋がっている。



海音寺ジョー(ペンネーム)さん 46歳・滋賀県高島市

「関ヶ原」に司馬が彦根の佐和山城を訪れるシーンがある。天下有数の巨城跡を目の前にし、城主だった石田三成の野心のでかさに想像を巡らせる。

この物語は三成の敗北と死で幕を下ろすのだが、三成の敗走する件に「この内治熱心だった男は、十九万余石の領民の顔を、二割まではおぼえていた。(中略)この男ほどに民治熱心だった男もまれであろう」とあり、最後は自分を匿ってくれた与次郎大夫に迷惑をかけまいと自らの所在を家康勢に告げさせ縛につくのである。

「関ヶ原」は東京で働いていた時に読んだ。それから十年たち、今僕は滋賀県高島の特養で働いている。最近入居してきた爺様が「大一大万大吉」と染められたタオルで顔を拭ってるのを見て、三成の旗印だ、とハッとなった。

関ヶ原から後も、時代は繋がっている。

司馬遼太郎作品の心に残る シーンコンクール 最優秀作品



朽木美穂さん 22歳・東京都豊島区



「関ヶ原」では石田三成の居城として佐和山城について度々言及されます。三成の身上に不相応なほど大きく、彼の野心をあらわしていたという城。城内の壁はすべて粗壁のまま、櫓や矢の材になる木ばかりを植えて実用性を重視したという城。現在は佐和山城址として石垣や堀などの遺構が保存されていると知り、訪ねました。登山道に沿って竹がまっすぐに空に伸びている所があり、矢竹の植わった城の風景を想像させられました。本丸跡からは周囲を一望できました。春先に訪れたため、城址のあちらこちらに黄水仙が咲き誇っていたのが印象に残りました。花言葉は「私のもとへ帰って」。切ないような、できすぎているような、不思議な気分になって下山しました。

安土城跡と

西の湖の水郷めぐり(近江八幡市)

⑨



安土城跡

織田信長が約三年の歳月をかけて築城した安土城。その内部は、狩野永徳が描いた墨絵で飾られた部屋や、金碧輝彩色で仕上げた部屋などがあり、最上層は金色で、当時の日本最高の技術と芸術の粋を集大成して造られたといわれ、本格的な天主の建築はこの安土城が始まりとされています。歴史上に名を残す名城でしたが、織田信長が倒れた本能寺の変後に焼失し、石垣だけが残っています。また、近くの近江風土記の丘の一角に滋賀県立安土城考古博物館があり、安土城をはじめとする城郭の変遷や織田信長関連の資料が展示されています。

■住所/滋賀県近江八幡市安土町下豊満
■TEL/0748-4614234
■安土城前観光案内所



安土城考古博物館

西の湖の水郷めぐり

内湖の一つ、西の湖では、かつて豊臣秀次も遊んだという水郷をめぐる風流な舟遊びが楽しめます。網目のように入り組んだ水郷のヨシ原の間をゆったりと屋形船で行く水郷めぐり。その歴史は古く、豊臣秀次が戦国の世の疲れを癒すため、宮中の雅やかな遊びを真似た事が始まりと言われており「春色安土八幡の水郷」として琵琶湖八景の一つにも数えられています。また近年では、時代劇やドラマの撮影場所としても人気があります。

■歴史作品 近江散歩



西の湖の水郷をめぐる水郷めぐり
▶藤沢由夫さんの応募作品

★写真は(左)右に2ピクセルズ・ロー・サービス

信長が築城した絢爛豪華な安土城と 豊臣秀次も遊んだという舟遊び

五個荘近江商人屋敷(東近江市)

⑩

五個荘金堂の町なみ



白壁と舟板塀が特徴の近江商人屋敷が佇む「五個荘金堂の町なみ」は国の重要伝統的建造物群保存地区に選定されています。毎年九月に開催されるイベント「ぶらっと五個荘まちなみ」では、近江商人時代絵巻行列が行われ、普段は非公開の近江商人旧宅を公開。「近江商人の町」全体を会場として美術館・博物館を開設しています。その近江商人屋敷の一つに作家の外村繁郎があります。母から商人になるように期待されながら、文学の道に進んだ外村繁。司馬さんは「街道をゆく」で「鮮やかな人間の景色を見たおもしろい」と外村繁を垣間みた印象を述べています。

■歴史作品 近江散歩

江戸時代の近江商人を 肌で感じる 「五個荘金堂の町なみ」



五個荘近江商人屋敷
(外村繁邸・外村宇兵衛邸・中江半五郎邸)
▶平地扇眞さんの応募作品
■住所/滋賀県東近江市五個荘金堂町
■TEL/0748-48-5676
(近江商人屋敷 外村繁邸)

審査員特別賞
エピソード
部門

歴史を紀行する
(古今文庫)

を読んで

吉田ケイペンネームさん

34歳 埼玉県越谷市

滋賀県が持つ「合理性」と「義理」というこの真逆の価値観。

司馬先生は著書「歴史を紀行する」の「近江商人を創った血の秘密」という話で、滋賀県出身の石田三成や蒲生氏郷、滋賀県を起源に持つ三井財閥は、財務に通じる「合理性」に長けていたと語っています。一方で同じ滋賀県出身でも、浅井長政や大谷吉継のように友誼や友情という「義理」を重んじ身を滅ぼした者達もいたと語ります。司馬先生は、滋賀県が持つ「合理性」と「義理」というこの真逆の価値観は、「体どこからきたのだからか」と問いかけます。読むうちに話は古代朝鮮、華僑等のマクロな話に広がり、滋賀県の魅力をたっぷり伝えてくれます。この作品で滋賀県好きになった私は、高校の修学旅行で滋賀県を見学コースに選び、彦根城で会った美人の受付のお姉さんのお陰で、ますます滋賀県好きになりました。また行きたいものです。

司馬作品から探る

湖南のシーン

“唐橋を制する者は
天下を制する”
東と西をつなぐ唐橋はさまざまな
戦乱に巡り合ってきました。
湖南は落ち武者たちや
芭蕉の安息の地。
司馬さんは叡山を二回に分けて
訪れています。

「行春を近江の人とおしみける」

芭蕉ゆかりの地で

”近江の人“を訪ねる

義仲寺（天津市）

⑪



▼ちえいさんペンネームの応募作品
■住所／滋賀県大津市馬場一丁目5-12
■TEL／077-52312611

義仲寺の名は、平家討伐の兵を挙げて都に入り、後に源頼朝軍に追われて粟津の地で壮烈な最期を遂げた木曾義仲をここに葬ったことに由来しています。江戸時代中期までは小さな塚でしたが、周辺の美しい景観をこよなく愛した松尾芭蕉が度々訪れ、のちに芭蕉が大坂で亡くなったときは、生前の遺言によってここに墓が建てられたと言われています。境内には、芭蕉の碎世の句である「旅に病で夢は枯野をかけ廻る」などの句碑が立ち、偉大な俳跡として多くの人が訪れます。



境内にある芭蕉翁の真跡句碑

幻住庵（天津市）

⑫

芭蕉の隠棲地、幻住庵

松尾芭蕉が隠棲地として暮らしていたのが幻住庵です。芭蕉の門人の1人であった菅沼曲翠が伯父の幻住老人旧庵に手を加えて提供したものです。芭蕉は「ここからの眺望やここでの生活を心から愛しました。」

「行春を近江の人とおしみける」芭蕉司馬さんはこの「近江の人」の一人に曲翠がいることを書いています。



幻住庵*
■住所／滋賀県大津市區分二丁目5
■TEL／077-533-3760



を読んで

田村宏さん 73歳・京都府綴喜郡

滋賀県の魅力は、言うまでもなく日本一の琵琶湖をはじめとする雄大な自然であり、その自然と歴史が深くかかっているとあると思う。滋賀を愛した司馬遼太郎も『街道をゆく』において豊かな自然と激動の歴史を重ね合せ、滋賀の魅力を示すところなく引き出している。

『街道をゆく』では、「湖西のみち」「近江散歩」「叡山の諸道」などで滋賀を紹介し、「城塞」や「関ヶ原」などで瀬田の唐橋を登場させている。この場所は古来交通の要所であり、戦略上の重要な拠点でもあった。その昔にもここから陽が昇り、鳥たちが飛び交い、カヌーは無かったものの丸子船が行き交っていたであろうと、橋の上に旅人の影を見たて昔に思いをはせながら撮影した。

日本三名橋の一つで近江八景「瀬田の夕照」で名高い名橋。古くは、瀬田橋・瀬田の長橋とも呼ばれ、日本書紀にも登場する。「唐橋を制するものは天下を制す」とまでいわれるほど、京都へ通じる軍事・交通の要衝であることから幾度となく戦乱の舞台となった。（大津市唐橋町）

入選作品
写真
部門

瀬田の唐橋

関ヶ原合戦で敗れた三成とイチョウの木の伝説



和田神社
▶遼太郎さん(ペンネーム)の
応募作品
■住所／滋賀県大津市木下町7-13
■TEL／077-522-2057



和田神社（天津市）⑬

旧東海道路にある和田神社。透塼に囲まれたところにある本殿は、鎌倉時代の建築で、国の重要文化財になっています。門は膳所藩の藩校「道義堂」の門を移築したものです。境内には高さ24m、幹周り4.4mという樹齢六〇〇年から六五〇年のイチョウの大木があります。関ヶ原合戦で敗れ、捕らえられた石田三成が、京へ護送される際、このイチョウの木につながれ、休息をとったという伝説が残されています。

応募作品
関ヶ原

今も奈良時代のロマンを漂わす紫香楽宮跡



茶碗の底のような小盆地の信楽谷
▶高橋興志勝さんの応募作品

紫香楽宮跡★
■住所 滋賀県甲賀市信楽町牧 ほか
■TEL / 0748-83-1919
(紫香楽宮跡関連移築共闘調査事務所)



甲賀市信楽地域に聖武天皇が大仏の造立を開始した紫香楽宮の関連遺跡群があります。一史跡紫香楽宮跡とされた黄瀬地区は、その後の調査で「甲賀寺」の可能性が高くなり、現在ではその北に位置する「宮町遺跡」に宮の中心がおかれていたとされています。二〇一七年に紫香楽宮最大級の建物跡が発見され、大仏関連施設の可能性もあるのではと、今も奈良時代のロマンを漂わせています。

掲載作品 甲賀と伊賀のみら

紫香楽宮跡 (甲賀市)

16

穴太積みの石垣の町 比叡山の鎮守神、日吉大社



穴太積みの石垣がある坂本
(重要伝統的建造物群保存地区に指定)
▶田村安さんの応募作品

比叡山の鎮守神となつているのが、坂本のまちに鎮座する日吉大社です。猿を神の使いとする日吉大社は、全国各地にある三八〇余りの「山王さん」の総本宮で、毎年三月には湖国三大祭の一つの山王祭が行われています。

掲載作品 叡山の誇り

猿を神の使いとする 日吉大社



日吉大社★
■住所 滋賀県大津市坂本五丁目1-1
■TEL / 077-578-0009

坂本の町なみ (大津市)

14

威厳に満ちた 雰囲気漂う比叡山延暦寺



根本中堂を中心とした東塔、釈迦堂を中心とした西塔、円仁によって開かれた横川の3地区に分かれている。

比叡山延暦寺★
■住所 滋賀県大津市坂本本町4220
■TEL / 077-578-0001

延暦寺の入り口
▼松田千春さんの応募作品
〇年もの間、日本の宗教界を主導する立場にありました。この比叡山からのちに日本仏教をささえた多くの僧侶を輩出しています。戦国時代に織田信長によって、焼き討ちに遭いましたが、豊臣秀吉・徳川家康の手によって復興されました。司馬さんはこの地を二回に分けて訪れ、比叡山の真髄に触れています。

掲載作品 叡山の誇り

世界文化遺産に登録されている比叡山延暦寺は比叡山に広大な寺域を持つ、天台宗の総本山です。奈良時代末期、最澄が中国に留学して天台宗を開立してからは、空海の開いた高野山・金剛峰寺とともに、約三〇

比叡山延暦寺 (大津市)

15

入選作品
エピソード
部門



久々に仕事で滋賀を訪れた。守山から県道2号で野洲川を越える右前方に近江富士。かつて何度も読んだ「竜馬がゆく」の最終章が蘇る。竜馬は大政奉還後の新政府財政を越前福井藩の三岡八郎に託すべく近江路を急ぐ...

岩切健二さん 58歳・大阪府大阪市

「おれには、こんどの仕事が最後になる」

竜馬は、近江富士の異名のある三上山を前方に見ながらいった。この仕事を終え、あとは西郷、大久保、桂、三岡らにすべてをまかせて海へもどることだけが、いまの竜馬にとってただひとつの願望になっていた。街道は晴れていた。竜馬がゆく。

この本のタイトルが登場する唯一の場面。司馬さんは本当に近江が好きだったのだろう。定年近い私が仕事でこの地を訪れるのも、これが最後かもしれない。

三上山 (野洲市)

三上山は高さ432m。この山を7巻半した「大ムカデ」を武將「侯藤太」が弓矢で退治したという伝説が残っている。
■アクセス / 名神東ICから約15分、または竜王ICから約30分
■住所 / 滋賀県野洲市三上





入選作品
写真
部門

内田晴己さん 70歳・滋賀県大津市

『欽山という一大赤教都市の首都ともいべき坂本のそばを通り、湖西の道を北上する。湖の水映えが山すその緑にきらきらと藍色の袖染をかけたようで、いかにも豊かであり、古代人が大集落をつくる典型的な適地という感じがする。古くは、この湖南の地域を「楽浪の志賀」といった。今では、滋賀県という。で、サザナミに楽浪という当て字をつけたのはなにか特別ないわれがあるのだろうか。朝鮮半島にも楽浪という地があり……』『街道をゆく』からの引用ですが、ここに表現されている、「さざなみ」と、「藍色の袖染をかけたような」琵琶湖を、表現する写真を撮ってみました。

街道をゆく
湖西のみち
(写真) 内田晴己
を読んで

ほっこくかいどう 司馬さんが北国街道へ旅した出発点、海津

また、高島市海津・西浜・知内の水辺景観は重要な文化的景観に選定されています。

海津大崎の桜*

■住所／滋賀県高島市マキノ町海津
■TEL 0740-33-7101
〔公社〕びわ湖高島観光協会

に真言宗智山派の大崎寺が建ちます。「日本」のさくら名所百選にも選ばれている海津大崎の桜は、樹齢八十年を越える老桜から次世代へ引き継ぐ若木まで約八〇〇本の華麗なソメイヨシノが琵琶湖岸延々約4キロにわたり桜のトンネルをつくり奥琵琶湖の自然が満喫できるドライブコースとなっています。

琵琶湖八景の一つに数えられている海津大崎は琵琶湖の北端、海津湾の東に波食によつて突き出た岩礁地帯です。断崖が湖に迫る岬の端



江戸時代中期につくられ、現存するという海津・西浜の石積みの景観*

海津大崎 (高島市) 19

漁村・街道・農村といった いろんな様相を示した 顔を持つ北小松

北小松の集落 (大津市) 17

比良山系の山並みが琵琶湖岸に迫ってきたあたりに北小松があります。西近江路の宿場が置かれていたこの集落は漁村・街道・農村といった様々な様相を今も残しています。町並みを歩くと防塵・防虫のために、赤い紅殻を家の格子や柱に塗っている家々が現在でも軒を並べています。琵琶湖側には北小松漁港があります。現在は数軒となった湖魚の佃煮製造業が、昔は盛んだった漁港の雰囲気を感じ出しています。また白い砂浜が広がり、キャンプ場も整備され今も賑わいを見せています。



北小松水泳場
■住所／滋賀県大津市北小松1017-1
■TEL / 077-592-0378 (志賀観光協会)

撮影作品 湖西のみち



司馬作品から探る

日本人のルーツを求めて旅した司馬さんの痕跡を通る湖西路。「街道をゆく」の記念すべき第一作は、「楽浪の志賀」と呼ばれた湖西の旅から始まります。



白鬚神社本殿 (重要文化財)*
■住所／滋賀県高島市穂川215
■TEL / 0740-36-1555

片桐且元を奉行として造営したものです。社名のとおり、延命長寿・長生きの神様として知られます。また、境内には与謝野鉄幹・晶子夫妻が神社を訪れた時に詠んだ歌を刻んだ歌碑があります。

撮影作品 湖西のみち



白鬚神社の大鳥居 (林健一さんの応募作品)
縁結び・子授け・開運招福・学業成就・交通安全・航海安全など、人の営みごと、業ごとすべての「導きの神」でもある。

比良山系が迫る湖中に 立つ大鳥居「白鬚さん」

白鬚神社 (高島市) 18

湖中に朱塗りの大鳥居があり、国道161号をはさんで社殿が鎮座します。創建は約二千年前、「白鬚さん」「明神さん」の名で広く親しまれ、また近江の嶺島とも呼ばれる近江最古の大社です。現在の社殿は豊臣秀吉の遺命によつて、その子秀頼が



室町末期の将軍 「くぼう様」がつくった 枯山水の庭園

敷地内には室町時代の様式を見事に残した名庭として、国の名勝に指定されている旧秀隣寺庭園があり、毎年春には樹齢五〇〇年近い老椿が咲き誇ります。足利庭園ともよばれるこの庭園は戦国時代に、戦火を逃れてきた12代将軍足利義晴を慰めるために贈られたものだと伝わっています。

興聖寺は鎌倉時代初期、宋から帰国した曹洞宗の開祖、道元が領主の朽木氏にこの地に寺の建立を勧めたのが始まりといわれています。本尊の木造釈迦如来坐像は、伝教大師の遺作と称される平安時代の名作であり、国の重要文化財に指定されています。

興聖寺*
■住所 滋賀県高島市朽木岩瀬374
■TEL 0740-38-2103



旧秀隣寺庭園のある興聖寺

興聖寺と旧秀隣寺庭園(高島市) 20

審査員特別賞 写真部門

藤沢和美さん 83歳・滋賀県東近江市

『…この寺の境内につづく一角に五百坪ほどの草っ原があり、そこに一群の岩石がちらばっているのを見て奇異におもい、(ひょっとすると、ここは足利義晴の流寓地だったのではないかと、突きとばされるような衝撃を感じたことがある。…ほとんど身一つで京を逃げだしてこの朽木谷に身をひそめたというが、その潜居の場所がこの興聖寺だったのであろう。義晴はそのとき憂さばらしにこの枯山水の庭園をつくったにちがいない。…室町末期の将軍の荒涼たる生涯をしのぶのにこれほどのふさわしい光景はないだろうとおもった。…庭は、健在であった。時節による風化のまま素直に荒れていて、観光という人工が加わっておらず、そのことに須田画伯が感動の声をあげてくれた。私は画伯を道案内してここまで来た甲斐があったとおもった。…』この可馬さんの文章から興聖寺の岩石に興味を抱き撮影いたしました。

街道をゆく 湖西のみち (新書文庫) を読んで

信長の撤退戦に 手厚く接待した朽木氏の城館跡



朽木深谷*

関ヶ原の戦い以後、徳川幕府の譜代大名格の待遇を受けた朽木氏が領地内に設けた館舎で、県指定の史跡です。当時は九万三〇〇〇平方メートルの敷地に本丸、二の丸、三の丸をはじめ、御殿・侍所・剣術道場・馬場・倉庫など戦陣拠点としての諸施設が建てていたといわれています。現在は、堀・土居・石垣の一部と2カ所の井戸がわずかに残っているだけです。近年になって、樹木が植えられるとともに、かやぶきの民家が移築されて史跡公園となりました。また、公園内には、郷土資料館もあります。

「信長の朽木越え」
織田信長の越前朝倉氏攻めの際に、浅井氏の裏切りによって退路を断られた信長が朽木氏の手配によって無事若狭街道から京へ逃れたというエピソードが「信長の朽木越え」として知られています。

朽木陣屋跡(県指定史跡)*
■住所 滋賀県高島市朽木野尻478
■TEL 0740-36-1553
(高島歴史民俗資料館)

朽木陣屋跡(高島市) 21

「信長の朽木越え」
織田信長の越前朝倉氏攻めの際に、浅井氏の裏切りによって退路を断られた信長が朽木氏の手配によって無事若狭街道から京へ逃れたというエピソードが「信長の朽木越え」として知られています。

鮎寿司

鮎寿司は湖国滋賀に千年以上昔から伝わる保存食。日本古来の「なれずし」の代表的一種で、古代から琵琶湖産のニゴロブナなどを主要食材として今も作られ続けている。滋賀県(旧・近江国)の郷土料理で県の無形民俗文化財「滋賀の食文化財」として選択。



入選作品 エピソード部門

燃えよ剣 (新書文庫) を読んで

森田恵奈さん 31歳・滋賀県大津市

「今年話題になった『ご当地ポテチ』その滋賀の味が、鮎寿司。かなり話題になり、品薄になった店舗も出た程だ。『鮎寿司』好き嫌いが分かれるソウルフード。それを巡る会話が『燃えよ剣』に登場した。この作品を、私は高校生の頃に読んだ。読み始めると止まらなかつた。まるで、その場に自分もいるかのような生き生きとした描写に引き込まれた。その中の土方歳三と沖田総司の会話。『鮎寿司を指し』『そんなものを喜んで食べるのは、あなたくらいですよ』そのような短いシーンがあった。偉人たちが自分たちと同じような会話をしている！しかも、土方さんは鮎寿司を愛してくれているのか！そんなことを感じて、ひどく嬉しかったことを記憶している。

作品のわずかな行間から司馬の近江への 熱いまなざしを受け止めている作品に敬服。

岩根順子氏

「淡海文化を育てる会」代表
NPO法人三方よし研究所専務理事
サンライズ出版株式会社代表取締役

今回の作品募集は、こよなく近江を愛した国民的作家の作品から滋賀県愛を増幅させたいとの思いで実施された。それぞれの作品は作家や作品への思いが強く、さらに作品のわずかな行間から

司馬の近江への熱いまなざしを受け止めているものもあり敬服した。しかしながら、全体として司馬の近江観に迫るものは多くはなかった。

エピソード部門では、概ね的確なとらえ方をしていたが、写真の部においては作品との関連性にもう少し踏み込んでほしかった。いずれも司馬が、当地の風土や歴史、さらにはこの地で息づく人々や生活の在り方への憧憬を真正面に受け止められていなかったのは残念だ。しかし、文章力に優れたものも多く、今後に期待したい。

写真とエピソード部門、どちらも投稿者の年齢が幅広く、また、県外からもたくさん応募がありとても嬉しかったです。傾向として若い方は作品の登場人物に思いを馳せ、年配の方はご家族のエピソードと合わせた人情溢れる作品が多く見受けられました。

人情ものに弱い私は読んだ端から「これが大賞です!」と感情に流されっぱなしでしたが、そこは審査委員長はじめ、他の選考委員の方のバランスの取れた判断で公正な審査となりました。本当にどれも心がこもった作品ばかりで、滋賀県と司馬遼太郎先生に対する真っ直ぐな気持ちが全ての作品から伝わってきて、審査をしている私まで活力が湧いてくるようなコンクールでした。

滋賀県と司馬遼太郎先生に 対する真っ直ぐな気持ちが 伝わってきました。

さかなこうじ氏

滋賀県在住の漫画家。
新潮社発行の「三成さんは京都を許さないー琵琶湖ノ水ヲ止メヨー」の著者。今回の「司馬遼太郎作品心に残るシーンコンクール」募集チラシ&ポスターの漫画を提供

今回の司馬作品に応募された方は、応募内容が単なる滋賀県の観光写真ではないだけに、「司馬さんの世界」をどういう風に表現なさるかに苦労された跡がひしひしと伝わってくるようです。上位入賞者の方々の写真を拝見しますと『街道をゆく』の須田画伯の挿絵ほどではないですが、フレームの外に広がる景色を感じる事ができる写真でありました。

司馬遼太郎の世界に自分なりにチャレンジしてやろうと気持ちをもっと強くアピールすればもう少し異なった世界が映し込めたのではないのでしょうか。

あとがき

滋賀の魅力は司馬作品を通じて伝わってきます。何度も滋賀の地を訪れていたという司馬さん。その作品を通して、改めて「滋賀の持つ文化の豊かさ」を再発見していただき、多くの方々に滋賀の魅力を発信していただくと幸いです。

総評

近江を舞台とする司馬氏の著書を
もう一度開いてみる時がやってきたのです。

審査委員長 加藤賢治氏

成安造形大学附属近江学研究所副所長



『街道をゆく』(全43巻)の第一巻は、「湖西のみち」というタイトルで近江への思いとともに始まりました。今回の「司馬遼太郎作品心に残るシーンコンクール」には、エピソードと写真の2部門に、司馬遼太郎氏が近江の風土に対して思い続けてこられた感覚と共鳴する多くの作品が寄せられました。

「私のもとへ帰って」という花言葉を持つ黄水仙が佐和山城跡のあちこちで咲いている…。『関ヶ原』を読んで、名将石田三成とともに戦国の世に散っていった人々を現地で静かに偲ぶ投稿者の姿が浮かんできました。「おれには、こんどの仕事が最後になる」というセリフが登場する「竜馬がゆく」のフス

トシーンの背景が三上山だと感慨にふける投稿者。その方も仕事でこの地を訪れるのは最後かもしれない思いながら三上山を仰ぎ見るといふ情景がなんとも美しく感じられました。

近江は幸いゆっくりと近代化が進みました。司馬氏は、戦後の高度経済成長期を突く走る新興工業国日本の急成長に警鐘を鳴らし、美しき日本の風土、心を取り戻そうと、近江にやってこられたのではないのでしょうか。「サステナブル滋賀」。近江を舞台とする司馬氏の著書をもう一度開いてみる時がやってきたのです。

「司馬さん」の世界を表現するのに苦労された跡が ひしひしと伝わってきました。

吉田武史氏(写真部門のみ審査)

フォーカルプレーン代表
SPA新写真派協会会員